

(熊本県立水俣高等) 学校 令和元年度 (2019年度) 学校評価表

<p>1 学校教育目標</p> <p>「平成31年度県立中学校・高等学校における教育指導の重点」等を踏まえ、本校の校訓「自律・敬愛・創造」のもと、文武両道の教育をとおして知・徳・体の調和がとれ、自ら考え、学び、夢に向かって真摯に行動する力を備えたグローバルリーダーの育成をめざす。</p> <p>そのため、全教職員は一体となり、教育者としての使命感と愛情を持って、家庭・地域社会との連携を深めながら、魅力ある学校づくりに努め、本校教育の充実・発展を図る。</p>

<p>2 本年度の重点目標</p> <p>(1) 心身ともに健康で、社会規範意識や人権意識など豊かな心を持った生徒の育成 (2) 主体的な学びを促す授業による確かな学力の育成と進路実現の取組の充実 (3) スーパーグローバルハイスクールの推進とグローバルリーダーの育成 (4) 学校の魅力発信と保護者や地域社会に信頼される学校づくり (5) 働き方改革の推進と教育の質の向上</p>

3 自己評価総括表						
価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学 校 経 営	特色ある学校づくり	SGHの推進とグローバルリーダーの育成	<ul style="list-style-type: none"> 独自の提言ができる発信力の強化 SDGs活動の普及と浸透 	<ul style="list-style-type: none"> 水俣ACTIの取組内容を見直し、探究活動の質を高める。 発信力の強化につながる評価方法を確立する。 SDGsについて全生徒の理解を図り、具体的な行動に結び付けさせる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 1学年ではカリキュラムを全面的に改定した(1学期:水俣病についてテキストを用いた資料読み取り。2学期:思考スキルの養成およびポスター作成。3学期:次年度の研究テーマの設定)。計画に沿って実施できている。 ポスターセッションにおいてループリック評価を行っている。今後はポスターやレポートを対象とした評価表、および探究活動全体を対象とした評価表を作成する。 文化祭においてSGH委員が作成したSDGsの視点で捉えた水俣市についてプレゼンを実施したり、1学年の課題研究テーマ設定ではSDGsの視点で考えさせたりするなど、様々な場面でSDGsについて考える場面を提供できている。
		学科・コースの特性を活かした取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> 普通科(特進コース・普通コース)の魅力向上 工業教育の推進 商業教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 学科・コースの特性を活かした教育課程を編成する。 普通科における総合的な学びを充実させ、特進コースでは高い進路目標の実現、普通コースでは幅広い進路希望に対応する。 工業科、商業科ではそれぞれ、ものづくり教育、ビジネス教育を充実させ、資格取得の推進、専門性を活かした進路実現を達成する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 普通科生徒の幅広い進路目標に応じた多様な指導形態(英語の習熟度別授業、コース別課外、個別指導進学対策)を展開し、生徒一人一人に対して細やかな指導を行い、多くの生徒が上級学校進学や公務員、企業への就職を果たした。 工業科、商業科ではそれぞれに実践の場を多く設定し、実践的スキルの習得と多くの資格を取得し専門性を高めることができた。その結果、就職希望者全員が希望する職種に合格内定した。
	開かれた学校づくり	保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会出席率の向上と信頼関係の構築 地域に根ざした信頼される学校づくり 	<ul style="list-style-type: none"> PTA総会や学年保護者会の周知と内容の充実に努める。 地域行事に積極的に参加するとともに、小中学校での学習指導ボランティアを行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> PTA総会は安心メール等で周知し、平日開催であったが昨年度の土曜日開催とほぼ同じ出席率であった。 恋龍祭では生徒とPTA、同窓会が一体となって祭りに参加した。水俣市放課後補充教室学習ボランティア、中学校「技術」授業支援として生徒が学習指導を行った。
	学校公開と情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 本校教育活動への理解と関心の向上 効果的な広報活動による入学志願者の増加 	<ul style="list-style-type: none"> 学校HPの更新頻度を上げて、アクセス数を増加させる。 PTA広報紙「もえぎ」、水高News、生徒会新聞、広報みなまた等で地域や中学校に積極的に情報発信する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> HPの更新頻度が上がりアクセス数も増加した。情報発信は安心メール等も活用できた。 年間3回発行の「もえぎ」に加え、学校のタイムリーな情報をJA新聞に今年度は毎月掲載し、広報みなまたへの記事掲載数も増加するなど積極的に情報発信に努めた。 	
	業務改善の推進	<ul style="list-style-type: none"> 業務の効率化と職員の意識改革 	<ul style="list-style-type: none"> 授業研究や生徒と向き合う時間の確保 超過勤務時間の短縮と年休等の取得率の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 業務の削減、負担の公平化、計画的な業務遂行に努める。 平日午後8時までの退勤、定期考査期間中の定時退勤に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業研究、生徒に向き合う時間は従来通りであるが、校務分掌のスリム化、効率化及びワークライフバランスの観点から職員の意識改革を進めた結果、超過勤務時間が昨年比85%に減少した。

学 力 向 上	基礎学 力向上	基礎学力定 着の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・欠点保持者数 の減少 ・進路実現に向 けた基礎学力の 保障 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別授業及び個別指導の 充実を図る。 ・ 査前学習会を実施する。 ・朝読書を通して読解力や理解力 を向上させる。 	B	習熟度別授業は専門系学科の数理英商で行った。検定合格や基礎学力の定着に役立っている。査前学習会を2回行った。2学期は欠点保持者数・欠点科目数ともに1学期に比べ減少した。普通科の国語、数学においても習熟度別授業を拡大していきたい。
	自学力 の育成	学習意欲の 喚起と家庭 学習の定着	家庭学習時間の 設定目標に対 して6割以上が達 成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宅習・生活の計画と記録を効 果的に活用する。 ・個別面談により学習意識の向 上を図る。 ・各教科による宿題や課題の工 夫を行う。 	B	宅習の記録を毎日つけ、生徒の時間管理の一助にした。家庭学習の設定目標達成者は5月の26%から11月の67%へと大幅な向上が見られた。個人面談の実施や課題の精選などもこれに資すると考える。長期休暇後の課題査への対応が不十分な生徒が多く、長期休暇の課題はさらなる精選が必要である。
	授業力 の向上	分かる授業、 興味関心を持 たせる授業づ くり	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラ ーニング型授業と ICT活用の定着 ・授業評価アンケ ートで7割以上 の肯定的評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間2回の公開授業週間を設 け、全教科で研究授業及び授業 研究会を実施する。教員相互に 2回以上の授業参観を行う。 ・各種研修会やスーパーティー チャーを活用する。 ・生徒による授業評価を年間2 回実施する。 	A	年2回の公開授業週間に合わせて各教科で研究授業を実施した。一人一人の相互参観回数は平均3回となった。スーパーティーチャーも合計6回招聘し、指導力向上などにつながった。これらの取組の結果、授業評価は1学期と2学期の比較で上昇した項目が多かった。公開授業における相互参観の回数は個人差があり、また外部参観者数も少ないため、実施時期等検討する必要がある。
キ ャ リ ア 教 育 (進 路 指 導)	進路意 識の高 揚	進路情報の 提供と進路 目標の明確 化	2年時終了まで の進路目標の決 定	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導LHRや出前授業で 幅広く情報提供する。 ・上級学校や企業と連携し、校 外で行われるガイダンスや企 業見学に参加し、進路意識を高 める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・希望制の放課後出張講座「ミナGAKU」を複数 回実施した。 ・就職・進学ともにガイダンスや企業見学の機会 を設け、進路意識の涵養に努めた。2年生は、就 職においては求人票の閲覧が増えており、進学に おいては放課後の質問等が増えている。
		勤労観・職業 観の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・職業や社会貢献 についての認識 の深化 ・就職1年以内の 離職率10%以下 の達成 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次しごと発見塾、2年次 インターンシップ、3年次企業 人との交流会等で職業につい ての理解を深める。 ・3年進路決定者には早期離職 防止の指導を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・しごと発見塾は2月に実施予定。インターンシ ップは事前事後指導が計画的に実施することが できた。3年次の企業人との交流会も有効に活動 することができた。 ・就職・進学にかかわらず、3年生の進路決定者 集会において、早期離職防止のための指導を行っ た。昨年度卒業生の離職率は8%であった。
	進路目 標の実 現	就職、公務員 指導の充実	就職内定率100 %の達成（第一 志望先合格率90 %以上）	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の適性を生かしたマッ チング指導を進める。 ・個々の就職試験に応じた個別 指導を充実させる。 	A	11月までに就職内定100%を達成した。1次合格も95%を超えた。
		進学指導の 充実	進学内定率100 %の達成と国公 立大学合格者20 名以上の達成	<ul style="list-style-type: none"> ・進路情報交換会や模試検討会 を充実し、各教科の課題と取 り組ませ方等を共有し、個別の具 体的かつ計画的な対策を行う。 ・全職員が生徒の受験状況を共 有し、科や教科で連携した指導 を行う。 	A	1・2年次の模試検討会を計画的に行い、成績の向上につながった。現在のところ、3年生の国立大学合格者は4名だが、学力の定着が見られ、一般試験でも十分対応できる力をつけた。センター試験の平均点は前年より33点上昇した。
生 徒 指 導	規範意 識の醸 成	正しい規範 意識と他者 尊重の意識 を醸成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・特別指導者 50 %削減 ・服装頭髪検査 不合格者 50%削 減 ・SNS等、携帯、 スマートフォンの 正しい利用方法 の習得 	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員が共通理解を持って指 導に取り組む。 ・年7回の服装頭髪検査を実施 し、検査前には訓話を行う。 ・情報係と協力し年4回パワー ポイントを使用した情報モラ ル教育を行い、適宜プリントを 配布するなど、通年で情報モラ ル教育を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・特別指導件数は昨年度とあまり変わらなかつ たが、問題事案発生後は管理職や関係職員と連 携を取り、迅速かつ丁寧に対応を行った。生徒 への指導も組織的に行え、反省を促して成長に つなげられた。 ・服装頭髪検査不合格者数は昨年度比で47%に 減少した。学年で積極的に指導を行っており年 々減少傾向にある。 ・情報モラル教育は3回行い、3年生のみ進路 決定後に追加で1回行った。また、全体へ話す 機会がある度に訓話を行った。しかし、思った ような効果が得られていないので、ロールプレ イや専門家の講話を取り入れるなど工夫が必要 である。
	基本的 生活習 慣の確 立	基本的生活 習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・5S活動の徹 底 ・あいさつの励 行 ・遅刻者数10% 削減 	生徒指導部が中心となって登校指導を行い、遅刻者の情報を担任と共有し、繰り返さないように個別指導する。	B	遅刻者数は昨年度比で64%に減少した。生徒指導部職員を中心に毎日登校指導を行った。遅刻者や欠席者に対する担任の指導により改善傾向にある。あいさつがおろそかになってきているので徹底する。

	防犯及び交通安全意識の高揚	防犯意識の向上と安全運転の励行	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年二重ロック率100%達成と日数10%増加 ・交通事故50%削減 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通委員による二重ロック調査を毎日行い、結果を公表し、未実施者には適宜指導を行う。 ・交通講話、交通安全啓発プリントを配布する。 ・原付通学生対象の集会を月に1回実施し、安全教育を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ※生徒指導()内の数字は昨年度同時期比較 ・二重ロックは132日調査を行った。99.6%(+0.2)、100%達成日数60日(+20)と昨年度よりも向上した。校外での二重ロックが徹底できていないので、まずは部活動等で校外施設を利用する際に徹底させる。 ・自転車2件(-5)、原付2件(-3)の事故報告があった。動揺から事故後の対応を正しく行うことができないことがあったので、ロールプレイなどで適切な対応方法を練習させる。
	自主性、社会性の育成	自主・自立の精神の涵養と生徒会活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・体育大会の生徒の満足感・充実感95%以上達成 ・文化祭の生徒の満足感・充実感90%以上達成 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会を主体とした学校行事の企画の検討、運営に努めるため、生徒会役員と顧問とのランチミーティングを毎週水曜日に関き、共通理解を深める。また、事後のアンケートを実施し改善につなげる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 行事前にはランチミーティングの回数を週2回に増やした。生徒会役員と顧問との連携が上手くとれたことで行事の成功につながり、体育大会の満足度は96.9%(+2.8)、文化祭は90.6%(+4.6)とそれぞれ上昇した。今後は今回出た課題を次回に活かし、より充実した活動にしていく。
人権教育の推進	人権教育推進体制の充実と人権意識の深化	校内の人権教育の推進	生徒・職員の人権感覚の高揚	<ul style="list-style-type: none"> ・同和問題等に関する職員研修を実施する。 ・人権講演会や人権LHRを計画的に実施する。 ・各種校外研修会への職員の積極的な参加を促す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・職員向けには計画通りにLHRや研修会を実施できた。人権感覚育成から行動につなげたい。 ・職員の各種校外研修会参加に偏りがあった。
		水俣病等に関する人権問題の学習	水俣病などの人権問題に関する理解の深まりと偏見や差別に立ち向かう発信力の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ・SGH事業と連携して水俣病等の人権学習に取り組み、適正な人権感覚を育成する。 ・ポスターセッション等の準備や発表を通して考えを深めさせ、自分の考えをきちんと伝える力を育成する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・資料館での研修会、語り部を招聘した講演会を実施し、水俣病への見識を深めた。 ・これまでの調査研究を踏まえ、調査研究したものを自分の言葉で表現することに努めてはいるが、中間発表や課題研究発表の場面から、他者の発表に対する問いを発する能力が不足していることが感じられる。
		「命を大切にす心」を育む指導の推進	「命」や「生きること」の考察を通じた自己肯定感と他を思いやる心の育成	全教職員によるすべての教育場面での命の教育の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・SGH事業を始めとしたすべての教育活動を通じて「命の大切さ」への理解を深め、相手を思いやる心と自己肯定感を育む。 ・朝読書におけるいじめ関連図書読書の実施 	B
いじめの防止等	いじめの未然防止	いじめを許さない集団の育成	SNS等へのいじめに関する書き込みの根絶	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめを許さない宣言文」を全校で採択する。 ・朝読書でいじめ関連図書の読書を実施する。 ・情報モラル教育を推進する。 ・生徒が相談しやすい環境づくりを行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各種いじめ防止の取組は計画的に実施したが、いじめ認知事案は2学期末時点で25事案あった。そのうちSNSへの書き込み事案が5事案であった。11月実施のアンケートでは、いじめを見たという生徒がのべ21名で、いじめ匿名サイト『スクールサイン』でもいじめ事案の報告があり、いじめを許さない雰囲気醸成されつつある。
	いじめの早期発見と適切な対応	校内委員会を中心とした全職員での取組	いじめ匿名通報サイト等の積極的周知と、いじめ事案に対する組織的認知と迅速な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・面談や各種アンケート等を実施し、いじめの早期発見と速やかな事実の確認にあたる。 ・いじめ匿名通報サイトの積極的な周知 ・学期に1回以上のいじめ防止組織会議の開催 ・被害生徒を守り、加害生徒にも適切に対応する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 校内いじめ防止基本方針に基づいて、未然防止への取組や発生した事案ごとに関係職員による早期対応を行った。いじめ認知事案は2学期末時点で25事案あった。
地域連携	防災教育の充実	学校安全総合支援事業の活用	防災意識の深化	<ul style="list-style-type: none"> ・実践委員会を2回実施し、1月には事業の成果をまとめる。 ・危機管理マニュアルを見直す。 ・防災教育の公開授業を実施する。 ・緊急地震速報受信システムを活用した避難訓練を実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・事業報告書を熊本県教育委員会学校安全・安心推進課に提出しホームページに掲載予定である。 ・危機管理マニュアルを見直し、水俣高校の実情に合った実行性の高いマニュアルができた。4月の職員会議で全職員による防災マニュアルの読み込みを実施する。 ・公開授業は、家庭総合の授業において、2年生164名を対象に、「防災ふろしき活用法」として実施できた。 ・緊急地震速報受信システムが12月に設置された。来年度はシステムを活用した避難訓練を実施する。

	地域と連携した災害時の連携体制の確立	防災型コミュニティ・スクールの充実	水俣市との防災協定の締結	<ul style="list-style-type: none"> ・年間4回協議会を開催し、防災に関する連携を図る。 ・9月1日に水俣市総合防災訓練を実施し、地域と連携した防災の取組を充実させる。 ・避難所運営マニュアルの改善を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携が深まり、水俣市との防災協定を結ぶことができた。 ・地域の人と訓練することでより真剣に取り組むことができた。課題として避難誘導の事前の準備を徹底したい。 ・避難所運営マニュアルの改善は、次年度により充実したマニュアルにしていく。
特別支援教育	特別支援教育の理解と推進	教職員の専門性の向上	合理的配慮を要する生徒の把握と研修の受講等による基礎的な知識・技能の向上及び専門性の習得	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な担当者会の実施、新入生保護者への気づきアンケート、全員に生徒理解研修を複数回実施するなどして、情報共有を図る。 ・研修の受講及び巡回相談の実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者会や気づきアンケートなどを通じて情報共有を図り、具体的な支援策の検討を通して、専門性を高めることができた。 ・地域で開催される研修等の受講者数は、例年と変わらなかった。
		特別な支援を必要とする生徒の把握と適切な対応	「個別的教育支援計画」の作成と全職員による効果的活用	<ul style="list-style-type: none"> ・個別に担任と連携をとり、保護者同意の個別的教育支援計画の作成を進め、有効活用を図っていく。 ・学期に1回教科担当者会議を実施し、指導計画の作成及び見直しを行う。 	B	1・2年生に関しては保護者の同意を得て個別の支援計画の作成を行った。その有効活用のため、学期1回の教科担当者会議を通じて指導計画の見直しや生徒に応じた指導方法の検討ができた。
環境・安全教育の推進	「環境首都水俣」の一員としての環境教育の推進	地域、行政及び企業と連携した環境活動の展開	グリーンフラッグ更新に向けた取組の充実	学校版環境ISO宣言項目に基づいた活動をブラッシュアップし、学校全体で生徒と職員が一体となって取り組む。	B	毎年継続していた活動を見直し、ゴミの削減を中心にした目標と計画にした。特にマイボトル運動や新聞エコバッグ活動を行い、プラスチックごみ削減に向けて学校全体で取り組むことができた。
			エコスクール活動の拡大と充実	「みなまた産業団地まつり」等の地域の活動に積極的に参加し、委員会活動の紹介を通して環境問題、環境保全に関する情報発信を行い生徒の主体性を育む。	B	みなまた産業団地まつりでは活動内容の展示に加え、今年度は新聞エコバッグのワークショップも行い、より多くの地域の方々にご参加いただき、本校の活動について情報発信することができた。性別年代問わず多くの方々と交流でき、更なる活動の手ごたえを得ることができた。
	健康で安全な学校生活の推進	健康な学校生活の推進	健康診断後の治療の徹底と、健康の保持増進の意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断後の病院への受診率を調べ、未受診の生徒への声かけを行う。 ・食事と健康の関連について生徒へ広報活動を行い、特に朝食については毎日摂ることを推奨する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・検診後の受診率を調べ、クラスに掲示したり、文化祭で発表したりすることで、受診率の向上に繋がった。歯科の受診率は他の科と比較して低いのが課題である。 ・体育行事の際、朝食をとるように指導したり、教科で指導したりすることで摂取率は昨年より向上した。
	安全な学校生活の推進	職員・生徒の安全意識の向上と、校内における事故のリスクの軽減	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回安全点検を実施し、早期に環境を改善する。 ・救急法講習会を実施し、全職員が救急の事態に対応できるようにする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回の確実な実施により、危険箇所の早期発見、修理に繋がった。 ・心肺蘇生・エビペンの使用法の研修を行った。エビペンの講習は初めてという先生が多かった。今後も定期的実施する。 	

4 学校関係者評価

本年度の教育活動について、学校経営、学習指導、進路指導、生徒指導、人権教育、環境教育、地域連携等の観点から、概ね高い評価をいただいた（4段階評価で平均3.6）。特に、「特色ある学校づくり、学力の充実、学校行事の充実、地域活動」の項目で評価が高かった。

主な意見としては、

- 教育活動が、生徒一人一人に手厚くきめ細やかに指導していただき、感謝している。他校ではこのように個人に対しての手厚い指導は考えられない。卒業生は、水俣高校は楽しかった、水俣高校で良かったと言っている。
- 私立高校はアピールが上手。第1希望はそれ程多くなくても、学校説明会が好評で体験入学に大勢参加している。学校説明会をもっと工夫して魅力あるものにした方がよい。
- 工業科の成果発表会は大変興味深かった。学校全体としてすばらしい取組をされている。
- 地域の子どもの数が減少すると学校の存在にも影響を及ぼす。PTAのみ、学校だけの問題でなく、地域で捉える問題である。行政も何か形としてしくみを作り上げ、先へつなげていかねばならない。
- 地元企業の中には世界各国に工場を持っていることから、高校生にも世界とのつながりを意識させる支援をしてほしい。
- SGHの発表等を見てみると、「いのちの発信」はもちろん水俣病学習で学んではいるが、「環境保全」に対する意識の方が高いように感じられた。

などがあった。

こうした意見を真摯に受け止め、今後も教育活動の充実に向けて取り組んでいきたい。

5 総合評価

(1) 全体について

自己評価においては、9個の大項目に対して29の具体的目標及び方策を設けて評価を行った。結果は、A評価が7個(24%)、B評価が22個(76%)、C評価、D評価は0であった。昨年と比較すると、Aの割合は11ポイント増加し、Bの割合は11ポイント減少、C・Dの割合は同じ(0)であった。

(2) 本年度の重点目標について

①心身ともに健康で、社会規範意識や人権意識など豊かな心を持った生徒の育成

規範意識や基本的な生活習慣の確立に向けて、全職員で登校指導や頭髪服装指導、面談などに取り組んだ。いじめ防止については、人権意識の高揚、情報モラル教育などを推進しながら継続的に取り組み、早期発見、早期対応をすることができた。体育大会や文化祭等の学校行事では、生徒が中心となって企画運営を行う中で、自主性や社会性の育成につながった。

②主体的な学びを促す授業による確かな学力の育成と進路実現の取組の充実

教科指導に関する内外の講師による職員研修を行い、教員一人一人が指導力の向上に努めた。一方でアンケート「教え方が工夫されていて分かりやすい」の項目では、職員の取組に対する意識に比べて、生徒の受け止め方が約25%程低い。また、「家庭学習が習慣化している」生徒は45%に留まっている。今後、さらに重点化して取り組んでいく必要がある。

進路実現については、キャリア教育の充実を図り、就職は11月に100%の内定を達成した。進学では、一人一人の進路目標に応じた計画的で細やかな指導に努め、国公立大学を始め多くの進路実現を果たした。

③スーパーグローバルハイスクールの推進とグローバルリーダーの育成

SGH指定4年目として取組を発展させることができた。課題研究成果を発表するコンテスト等で多数の受賞を果たした。中でも工業科の取組が充実し、機械科のEVスクーターは九州地区工業高校生徒研究発表会で最優秀賞を受賞し全国産業教育フェア新潟大会で発表することができた。また、海外交流活動のスロベニア研修では、水銀問題や地域活性化を中心に学びを深めることができた。こうした活動をとおして、生徒の視野も広がり、グローバル人材の育成を推進することができた。

④学校の魅力発信と保護者や地域社会に信頼される学校づくり

地域で行われる様々な行事やイベント、また、小学校や中学校の教育活動において、実業系各科や部活動、学年などがそれぞれ積極的に参加し、地域連携や地域貢献の取組を行うことができた。また、防災型コミュニティ・スクールに関しては、地域と連携した防災訓練、水俣市との避難所に関する協定締結など防災体制を確立することができた。

⑤働き方改革の推進と教育の質の向上

具体的な業務の効率化、削減、計画的な業務遂行を図るとともに、教職員の資質、能力を高める研修を行い、スキルアップと意識改革をすすめた結果、生徒に向き合う時間は減らすことなく超過勤務時間を15%削減することができた。

6 次年度への課題・改善方策

(1) 学校経営

SGH活動や専門学科の特性を活かした取組を充実させるなど学校の特色化を図り、企画部やPTAの広報活動など、入学志願者確保のために様々な取組を行ってきたが、募集人員を上回ることはできなかった。今後も引き続き生徒募集の取組を充実させていかなければならない。

昨年度に引き続き、学校改革と働き方改革を推進し、負担感軽減や生徒と向き合う時間の確保、教育の質の向上に取り組んできた。今後も更なる業務の効率化と生徒の自立的で主体的な取組の推進の視点から改善と充実を図っていく。

(2) 授業改善と学力向上

次年度も継続して、「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進するとともに、思考力・判断力・表現力の育成に向けて、生徒の興味関心を高め、分かりやすい授業づくりに努めていかなければならない。また、確かな学力の定着のために保護者と連携して家庭学習の充実も図っていく。

(3) キャリア教育の充実

人生観に基づく進路選択・決定のために、高校3年間を見通したキャリア教育をさらに充実させる。ガイダンス機能とインターンシップ等の体験活動を強化し、望ましい職業観、勤労観を育み、生徒一人一人が目的意識を持って日々の活動に取り組む態度を育成する。そのために教育活動の全領域においてキャリア教育の視点をもって取り組む。

(4) 生徒指導の充実

基本的な生活習慣及び規範意識の確立に向けて日ごろから全職員で取組を進める。人権感覚を高め、いじめのない学校づくを目指すとともに、SNSの使い方についても実感をもたせる指導を行い、健全な心身の育成に努める。交通安全について意識をさらに高め、交通違反及び交通事故0を目指す。

(5) スーパーグローバルハイスクールをとおした活力ある学校づくり

指定最終年度となるSGH事業は、これまでの取組を充実発展させ、グローバル人材の育成に向けてさらに進展を図ってきたい。また、指定後もグローバル人材育成が本校の特色となるよう、関係機関との連携強化を図るなど準備をすすめる。

(6) 地域連携の推進

今後も地域や地域の小中学校との密な連携をとおして、学校の発展と地域の発展に努めていきたい。そのため総合型コミュニティ・スクールにおいて、人材育成、地域活性化、地域防災などの観点で連携を深め、地域に信頼される学校として教育の充実を図っていきたい。